

令和4年度 高志中学校1年生「高志学」嶺南研修

1 期 日 5月19日(木)

2 目 的 (1) 高志中学校生徒としての心構え、集団生活を送る上でのルールを学び、共に学ぶ仲間同士の人間関係を深める。
(2) ふるさと福井における自然や歴史を知る。
(3) 事前・事後学習を通して、調査の仕方、レポートの書き方、発表の仕方について学ぶ。

3 場 所 〈三方方面〉 若狭三方縄文博物館、福井県年縞博物館
〈敦賀方面〉 金ヶ崎緑地公園、人道の港敦賀ムゼウム

4 参加生徒 1学年90名

5 報 告

嶺南地区の様々な施設を訪問し、福井の資源(たから)と言える資料や歴史に触れ、ふるさと福井への思いを新たにすることができました。

【若狭三方縄文博物館】

若狭三方縄文博物館は若狭町の鳥浜貝塚から出土した遺物を中心に、縄文文化をテーマにした博物館で、遺跡から出土した丸木舟や縄文土器、石器、木製品、種子、骨などが展示されており、それらを間近で見て学ぶことができました。また、案内ガイドさんの丁寧な解説に熱心に耳を傾け、縄文時代の福井の歴史に思いをはせることもできました。縄文の森をイメージしたスペースや貝塚の立体模型など、大きな展示物を体で感じることもできたことも大きな収穫でした。



【火起こし体験】

担当者から火起こしの方法を教わると、我先にと「まいぎり式火起こし器」を回し始めました。火起こし器の先端は固く、火きり板は柔らかい木を使っているため、こすれて火きり板が削れ、その粉末に摩擦熱で火が付き、火種になるということでした。交代しながら火起こし器を回し続け、早い班は5分ほどで火をつけることができていました。最後にはすべての班が無事に火を起こすことができ、現代の火器のありがたみを知る良い機会となりました。



【年縞博物館】

最初に動画で年縞の解説を聞き、その後、案内ガイドさんが年縞のステンドグラスを見ながら詳しく説明してくれました。その年にあった地震や火山の噴火などの出来事とともに、年縞の特徴を教えてもらったり、水月湖で年縞ができた理由を聞いたりしました。1年に0.7ミリという縞が7万年分も1年も欠けずに降り積もっていることの意味と、そのすばらしさを理解することができる貴重な体験でした。



【人道の港 敦賀ムゼウム】

明治から昭和にかけて、ヨーロッパとの交通の拠点としての役割を担った敦賀港と、ポーランド孤児や「命のビザ」のユダヤ難民の史実を中心に展示された資料を見学しました。当時の敦賀市民の証言やエピソードを交えた交流の様子を熱心に見学し、生徒たちは命の大切さと平和の尊さを学ぶことができたようです。



【金ヶ崎緑地公園（俳句作り）】

快晴の金ヶ崎緑地公園で俳句作りを行いました。広い芝生やジンベイザメがいたという噂の敦賀湾を眺めながら、それぞれが自分の思いを俳句にしました。5・7・5の17音にしないとか、季語を入れるなど、俳句のルールに四苦八苦する姿も見られましたが、若々しい感性で詠まれた句はどれも素晴らしいできばえでした。

